

地域再発見の喜びと愛着を育み自ら活力ある安心で温かい街づくりに関わる人づくり支援
～私も参画まちづくり 地域再発見の喜びを人と知恵の縁結びに～

松江市白潟公民館

1 白潟公民館の概要

白潟公民館は、宍道湖・大橋川・天神川・山居川に接し、少子高齢化や空洞化が進む中心市街地「白潟」のほぼ中央に位置する。

白潟では平成17年度、地域29団体による『白潟あんしんネット』が組織され、高齢者福祉や青少年育成、防災等多岐に亘る地域課題解決のための連携協働が図られることとなった。中でも平成18年度に完成した町内会単位の「ブロックあんしんネット」は、ブロック別防災地図作成や地図を使った街歩き等を実施しており、一人一人が主役の街づくりの実現に大きな力となっている。

こうした機運の中、公民館は地域づくり協働の要として、又、地域の特性を生かした楽しい学習活動創造の要として、地域への愛着と一体感の醸成に努め、地域づくりに関わる人々絆を広げ深めたいと願っている。

2 事業の概要

(1)はじめに

白潟は、開府以来の経済・産業の中心地であり、今も当時の町割りや貴重な歴史が残る街である。しかし、少子高齢化や商店街空洞化が進み、貴重な人的・物的財産の喪失や災害時等の互助組織づくりが緊急の課題となっている。そこで地域の特色を①高齢率N01と②豊かな歴史の街に焦点化し、高齢者が多いことは次世代を育む存在がN01であり、生きた知恵生きた歴史を持つ存在がN01の土地であると捉え事業を検討、高齢者を伝承者とした「温故知新 座談会」や「地域学習」を設定した。具体的には、～私も参画まちづくり 地域再発見の喜びを人と知恵の縁結びに～をテーマに、若い世代の参加促進や高齢者の社会参加増大、児童生徒の育成などを重要視点に年次計画を策定本年度は4年次にあたっている。

○1年次(H16)地域課題の把握 ○2年次(H17)自立と協働を目的とする『白潟あんしんネット』の設立とちかいのことばの制定 ○3年次(H18)「ブロックあんしんネット」の設立と「ブロック別福祉防災マップ」の製作 ○4年次(H19以降)同マップを使ったブロック別活動の実施 ○3年次以降「楽しく学ぶ」地域学習の実施(人実方・木の実方・釜甌方等) ○4年次以降「昔話で知る白潟の暮らし」「温故知新 座談会」の実施

(2)本年度の具体的な取り組み

①「楽しく学ぶ」地域学習の実施

ア、 木の実方楽習

*○魚町回船問屋「肥後屋」現当主三島さんから、木の実方と三島家について学ぶ(4/13)

*○生蠟絞り体験 「ふれあいの里奥出雲公園」で実施。(5/23)35名参加。1,2キロの櫛から100グラム弱の蠟を抽出。

*○木の実方役所跡など現地見学会(6/23)27名参加。和多見櫛蔵跡、米田酒造(役所跡)、

臨水亭(滝川家)等を見学、木の実方役所が元々は和多見にあったことを学ぶ。

イ、和ろうそくで楽しむ

- *○和ろうそく作り(H19.11.4) ・蠟は白潟公民館祭りで手製の和ろうそくに製品化。
約 25 名が参加。抽出した蠟などをぐい飲みに入れ芯を立て 60 度の湯煎で完成。20 個の和ろうそくが出来上がり、「和ろうそくで楽しむ」企画を考えることとなった。

- *○和ろうそくと小灯籠づくり (11.9)

中央小 4 年生の職場体験に合わせ地域住民が参加。

- 「豪商の町白潟」を学び、和ろうそくと小灯籠を作ろう (12.4)

中央小 4 年生 90 名と地域住民 10 数名が参加。豪商の町白潟の成り立ちや歴史を学習後、和ろうそくと小灯籠を製作。



- 和ろうそくのゆらぎを楽しむ会(12.19)

白潟本町、同商店街、本町商店街、市民学習推進センター共催。約 200 本の手製和ろうそくを竹や児童手製の小灯籠に入れ、白潟本町の街路に設置。公民館ハンドベル同好会の演奏や炎のゆらぎを楽しんだ。約 100 名が参加。



- 茶香炉づくり(20.2.21 ,2.25)

白潟はお茶の文化が根付き老舗も多いところから、お茶の香りと共に炎のゆらぎを楽しむことを計画。約 10 名が参加。



ウ、釜甌方楽習

- 絲原記念館見学(10.24) 40 名参加

奥出雲で算出された鉄がどのような経路を辿って釜甌方へ運ばれ、どのような鉄が釜甌方で使われたか等を学習。

- 釜甌方楽習(11.27) 40 名参加 講師 郷土館 安部登先生 釜甌方火の守り神?

釜甌方の位置やその規模、藩建て直しへの功績などを学習。

- 横浜界限現地見学会(3. 26)

如泥石の護岸、小路、共同井戸等「横浜町今昔」を基に現地見学会を実施。

下部丸く見えるのが如泥石→



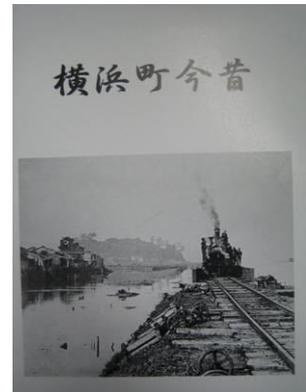
②地域資料の整理活用

○木の実方楽習 DVD 製作

高齢者や児童生徒の学習資料として製作。5月奥出雲自然公園での榎蟻作り実地研修の様子や木の実方の様子を収録。

○私史「横浜町今昔」編纂に対する支援

地域学習を契機に編纂された横浜町史を地域学習の教材として活用。



*③「昔話で知る白潟の暮らし」

「温故知新 座談会」の実施

○第1回(6.14)

温故知新・白潟本町の巻
風流堂内藤社長、出雲ビルオーナーの話



○第2回(6.23)

温故知新・和多見の巻 和多見ハゼ蔵跡と滝川家

○第3回(7.28)温故知新・魚町の巻 乾隆明先生講話

○第4回(1.30)温故知新・南寺の巻 金川義弘古美術店さんの話・寺町家屋疎開座談

○第5回(2.13)温故知新・横浜の巻(前編) 玉木勳氏著 「横浜町今昔」苦労話と講和

○第6回(3.5)温故知新・横浜の巻(後編) 同上

○第7回(3.12)温故知新・人參方の巻 浜田周作さんに「気候変動」を聞く



④ブロック別防災マップを使った防災活動の実施

ア、ブロック防災街歩き

○第1回 袖師・嫁島町内会 (8/20) 30名参加
同地区マンションには児童生徒が多く住み、高齢者と共に乳幼児を連れた若い親や小学生が参加。防災マップに加筆

「穴が!」→



防災マップに加筆



○第2回 昭和町とサバァンパレス子ども会の交流会(12.24) 防災街歩き 20.3.16)
昭和町は小学生が僅か1名、高齢者の多い町であり水害地帯であるところから、マンションに住む人々との交流や防災街歩きが実現。

(注 *印は社会福祉協議会共催等別途費用で実施)

3.事業の成果

- (1)意欲的な学習参加の様子が回を重ねるほどに見られ、男性や地域外の方の参加が増加している。学習や座談会が契機となり町史編纂をされた人もあり学習が浸透しつつある。
- (2)喜々として語る高齢者の姿があり、町内会ばかりでなく仲間同士での参加が増えている。
- (3)小学生が地域の歴史に驚き、和ろうそく作りや炎のゆらぎを楽しむ会を喜んだ。
- (4)好意的に資料提供に応じる人々が増え貴重な資料や写真が集まってきている。中でも、今まで門外不出だった事物が学習時に展示される等、地域学習の目的や方法への理解が進み、地域の人的物的財産の発見が進んでいる。
- (5)座談会の話題を契機とし、家屋疎開や戦前の街の様子を記録に残す動きが始まり、三地区でほぼ完成。
- (6)「白潟サロン」や「だんだん街づくり会社」等地域の街づくり諸団体との連携が深まり、学習に広がりや質的高まりが生まれつつある。



25日天神市の日、白潟サロンで如泥石を展示、
『横浜町如泥石の護岸石について話す玉木氏』



- (7)『防災』と「子ども」を鍵に、二地区で既町内会とマンションの交流が実現した

4.課題と今後の展望

- (1)専門機関との連携・協働のしくみづくり

地域学習や座談会では貴重な歴史的資料も無造作に提供されることが多い。豊富で優れた価値をもつ白潟の歴史的な事物は、町屋の歴史として未発見のものも多いと聞く。資料性の吟味やリスト作りなど専門家の指導助言が気楽に受けられるしくみが急務である。

- (2)「地域楽習」や「座談会」への町内会の理解・協力の推進

これまでの結果から、『座談会』や「地域楽習」では、地域人としての一体感や高齢者の生き生きした姿が見られ、福祉や地域防災等地域づくりの大切な基盤となっている。一年で交代する町内会長も多く、更に理解を進め町内会との連携を深める必要がある。

- (3)事業運営委員会の強化

現企画は、高齢者の社会参加や次世代育成など地域課題の総合的包括的事業として実施しており幅広い視野からの企画立案の組織作りが急務である。

- (4)「ブロックあんしんネット」の定着と活性化

H19年度は二地区をモデル地区に指定町歩き防災活動等を行った。H20年度もモデル地区を設定しブロック別防災マップ活用活動を奨励、私も参画街づくりを進めて行きたいと考える。